

平成26年度 発達障害児者支援開発事業 報告書

事業名

「思春期発達障害事例に対する総合的支援プログラム開発」

実施機関名 山梨県立こころの発達総合支援センター

1. 要旨

発達障害の2次障害として、一般には不登校・ひきこもりと就労困難問題などがあげられる。また、ライフステージに応じた発達障害の支援を考えると、幼児期においては、近年、早期発見、早期介入の仕組みとプログラム開発が進められてきている。学齢期においては特別支援教育、成人期は就労支援の枠組みがあり、支援のプログラム開発が行われている。一方、発達障害の思春期例に特化したプログラムの開発は遅れているのが実情とも言える。そこで、山梨県では、平成20年度より前者の不登校・ひきこもりに対して、2次的支援として発達障害者サポーター養成・派遣プログラムを実施し、余暇支援の保障や社会参加の促進を図ってきた。一方、後者の就労困難問題を考えたときに、当センターの成人期ケースの中にも、将来像が持ちづらく就職に結びついていない人も多くあり、いざ就労が目の前に迫ってきたときに社会人として身につけておくべき大事なことを学び損ねていた、という事例がある。これらの問題の背景としては、中等教育段階からのキャリア教育の不足と思春期から成人期への支援のつながりが弱いことが考えられる。普通学校に在籍する発達障害のある子どもには、支援学校のような系統的なキャリア教育はないため、発達障害にみられる課題に対応したキャリア教育の学習の機会がない。また、実際に体験してみないとイメージがつかみにくいものの、体験場所を確保していくことも難しい現状があり、思春期での支援が1つの鍵になると言える。そこで、平成25年度からは、これまでの2次的支援から予防的支援と内容を拡大させ、より早期の思春期である段階から取り組める将来を見据えた支援プログラムの開発と、各分野の支援関係者が発達障害の人たちに早期の段階からかかわり、思春期から成人期へつなげるネットワーク形成を行い、思春期の発達障害事例に対する総合的支援プログラムの開発を行っている。平成25年度から親や特別支援学校教諭、就労支援関係者たちの有志によってはじまった「就労支援ワーク」との協働開催の実施体制をとっている。職業講座をメインとする本事業と、職場体験をメインとする「就労支援ワーク」を一体化させることで、講座で学んだ知識が職場体験での実感を伴った理解につながる一連のセットプログラムとなる。また、身近な地域でも本事業が実施できるようノウハウをまとめた「就労支援ワーク」テキストを作成した。このことにより、地域の支援体制が整備されていくことが期待できる。平成26年度からは、モデル市が事業化を目指して本プログラムの実施を検討している。

2. 目的

思春期から将来イメージが形成できるようなプログラム開発と、就労につなげるネットワーク形成を行い、発達障害者サポーター養成・派遣プログラムと合わせて、思春期の発達障害事例に対する総合的支援プログラムの開発を行い、関係機関、地域への普及・啓発を図る。

3. 実施内容

(1) 思春期将来展望形成プログラム

①本人向け講座

ア. 事前講座

日時：平成26年7月29日（火）

場所：山梨県立図書館交流ルーム

時間：10時～15時半

内容：

テーマ①「職場に必要なコミュニケーション」 講師：山梨障害者職業センター 職員

テーマ②「タイムスケジュールをつくろう」 講師：特別支援学校 教諭

テーマ③「グループワーク 職業調べ」 講師：こころの発達総合支援センター 職員

テーマ④「職場体験オリエンテーション」 講師：こころの発達総合支援センター職員

職場体験前に、働き方や働く上でのマナーなど職業に関するテーマについて学び、就労への具体的なイメージをつかむ。また、仲間と一緒に学ぶことをとおして、他者への関心、コミュニケーションの力を育て、学ぶ楽しさを体験する。

イ. 職場体験

日時：平成26年8月5日（水）、7日（木）

時間：8時半から15時半

場所及び作業内容：

入門編（特別支援学校内）：ラベル貼り作業、組立作業など

事業所編：リサイクル作業、製パン、組立作業、ジャム、農作業など

参加者の希望や課題に応じて、入門編または事業所編の適性に合った職場を選択し、実際に合った模擬的な就労体験を行う。

ウ. 報告会

日時：平成26年8月11日（月）

場所：山梨県立図書館交流ルーム

時間：13時半～16時

職場体験の様子や感想を報告し合い、仲間の体験を共有する。そして、様々な職種があることに気づき、仕事へのイメージを広げる。

②保護者学習会

日時：平成26年7月29日（火）

場所：山梨県立図書館多目的ホール

時間：10時～12時

内容：テーマ「発達障害者の就労 ～我が子の体験から考える～」

講師：東京 LD の会

講演会形式で、我が子の社会参加に向けて必要な情報を学ぶ。

③支援者研修会

日時：平成27年2月9日（月）

場所：山梨県福祉プラザ内会議室

時間：15時半～16時半

内容：テーマ「思春期の将来展望形成と就労支援について」

講師：こころの発達総合支援センター所長

参加者の特性を理解し、必要な支援の在り方を研究する。

(2) 発達障害者サポーター（以下、「サポーター」）養成・派遣プログラム

① サポーター養成

② サポーター派遣

本プログラムは、ひきこもりや学校不適應、社会参加できていない思春期の発達障害者に対し、有償ボランティアで、児童相談所のメンタルフレンドを参考にプログラム化したものである。サポーターを派遣し、継続的な対人関係の機会を通して、きめ細かい生活上の助言や支援を行い、社会参加の準備となることを目的とする。サポーターの多くは、県内の福祉や教育、心理を専攻している大学生である。本プログラムは、担当者が発達障害の専門家として、サポーターのリクルートから養成、派遣まで、全てにわたり企画、運営を担う。サポーター養成では、まず担当者が大学のボランティアガイダンスに参加し、学生に本プログラムの紹介を行い、サポーターを募集する。その後、申し込みのあった学生に対し「発達障害者サポーター必携」を活用しながら、本プログラムについてオリエンテーションする。サポーターは毎回の活動後に活動報告書を作成し、担当者が必要に応じてスーパーバイズする。サポーター派遣では、対象者は当センターで定期的に相談を受けているケースで、大学生でもかかわりやすい比較的安定しているケースを選定する。マッチングは、サポーターの居住地や趣味、人柄などから対象者に合うと思われるサポーターを、当センターのスタッフ間で協議し決定する。サポーターの活動内容は、余暇支援、学習支援、生活支援、相談支援に分けられ、活動の頻度は月に1～2回程度とする。

4. 分析・考察

(1) 思春期将来展望形成プログラム

① 本人にとっての成果

・自己理解が深まる中学生、高校生から就労の体験をすることで、就労イメージを育むこ

とが期待できる。

- ・仕事について考える機会を職業講座と職業体験をとおして持つことができ、生活スキルの向上や、自分の適性への気づき、仕事が楽しいと思える貴重な体験を得られる。

- ・支援者と出会う機会となり、支援を受けて働く体験ができる。

② 保護者にとっての成果

- ・普段みられない子どものがんばる姿に気づくことができる。

- ・保護者プログラムの学習会へ参加することで、就労や社会参加に向けて見通しをもつことができる。

- ・同じ悩みをもつ子どもの保護者や、就労支援関係者と出会う機会になる。

③ 支援者にとっての成果

- ・プログラム全体をとおして、思春期の発達障害について学ぶ機会になる。

- ・労働、教育、福祉の支援者で取り組むことにより、支援者がより効果的に発達障害の就労支援の方法を学ぶ機会になる。

④ プログラム全体の成果

- ・「就労支援ワーク」と協働開催することにより、ノウハウを得ながら、プログラム展開ができる。

- ・各支援者の専門性を生かした支援が可能となり、双方でそのノウハウを学ぶことができる。

- ・実行委員は、教育、福祉、労働、自治体のメンバーで構成されているため、学齢期から成人期へのつなぎのシステムづくりができ、本事業を地域へ波及していくことが期待できる。

- ・「就労支援ワーク」テキストは、関係者で共有可能となる就労支援ツールとなる。

(2) 発達障害者サポーター養成・派遣プログラム

① 対象者にとっての効果

サポーター派遣は、当センターの支援者が行う相談支援以外の余暇支援などが可能となり、対象者の活動範囲が広がり社会体験につながる。また、少し年上の大学生がサポーターになることは、対象者の身近なロールモデルになり、同世代より苦手意識が少なく馴染みやすく、自然に近いかたちで社会体験ができる。

② 支援者にとっての効果

サポーターには教員など専門職を目指す大学生も多く、実際のサポーター活動の体験は、将来の具体的なイメージをもつことができ卒業教育になる。実際に、サポーターとして参加した大学生の中には、特別支援教育、福祉、医療など、何らかの形で発達障害にかかわる進路に進む人が多くいる。また、本プログラムは大学の教育ボランティアの単位としても認められており、大学と連携することにより、大学教員の発達障害への理解が深まり、大学側の受け入れ体制が整うことが期待できる。

③本プログラムの企画・運営のポイント

サポーターは発達障害のある人とのかかわりは初心者であるため、サポーターが安心して活動を行えるよう、サポーターへのスーパービジョンを密に行う体制を保障することが重要である。また、対象者の選定にあたっては、専門家と対象者の間に、日常的な支援関係が築かれていることが重要であり、適切なマッチングを行うためには、発達障害に関する高い専門性が必要である。

5. 企画・推進委員会の実施状況

(1) 委員構成 26名

医師、学識経験者、親の会、支援機関、行政機関など幅広い分野から構成した。

(2) 開催実績

	開催日	検討内容
第1回	平成26年6月5日	事業の策定、実施上のアドバイス
第2回	平成27年2月2日	事業についての評価、とりまとめ

6. 成果の公表実績・計画

支援者用「就労支援ワーク」テキストを作成し、福祉、教育など各関係機関に配布した。